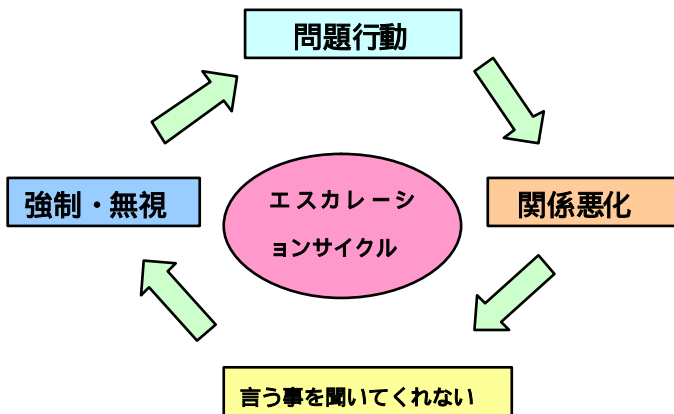


コモンセンスペアレンティングとは

アメリカネブラスカ州の児童施設（日本では情短施設に近い）が開発した子どもへの援助技術。90年間ケアワーカーと子ども達との**良好な関係構築**、**子どもの社会自立の成功**を視点にした研究の結果、現在のスタイルが確立されています。この技術は全米をはじめ、欧州、アジアの子ども達へも多く採用され、効果を上げています。コモンセンスペアレンティングの大きな特徴の一つは、子どもの問題行動を予防すること（予防的教育法）にあります。大人が子どもに行って欲しいことを具体的に話して練習し、その行動が見られたら具体的に誉めるといった行為を繰り返すことで大人と子どもの信頼関係が出来、子ども自身が適切な社会スキルを多く身につけて社会で成功する可能性を高めます。

サイクルの変更



Boystown 創始者 フラナガン神父像（米・ネブラスカ州） 森と湖がある広大な敷地に80軒近いコテージあり1,000人近い子ども達がペアレントワーカーと生活している。

何故プログラムが必要なのでしょう。

子ども達を養育・援助していく上で私達は単独で行うのではなく、チーム（家族・職員・学校・保育所）で行う場合が多くあります。子どもを育てる大人（親・職員・教師）は様々な養育・援助についての固有の価値観を持っています。そのこと自体は決して悪いことではありません。様々な考え価値が多様で豊かな養育につながる可能性もあります。しかしこの固有の価値観は非常に個人的な要因（その大人の育ち、親の姿等）で形成されている場合が多く、共有することが難しい場合があります。子育て・養育現場が年々難しい状況に置かれる今、私達は共通の子育て・援助スキルを持つことによってその積み重ねが起これ、伝承されより良い子育て・養育に発展する可能性が高まります。

「しつけ（援助・指導）＝親が子どもに行う説明、教育、トレーニング」

1、具体的なコミュニケーション

しつけ(援助・指導)の定義は教えて練習すること（説明、教育、トレーニング）です。これは最終的に子どもが家族や社会の一員としての自治能力（自分で出来るようになる）を養うことを目的としています。

教えるポイントは「具体的・描写的であることです。」これを親が言語化することで子どもは何が良くて、何が悪くて、何を行ったら良いのかを理解できるようになります。これがプログラムの基礎となります。

行動とは見たり聞いたり数えたりする事が出来る具体的なものです。

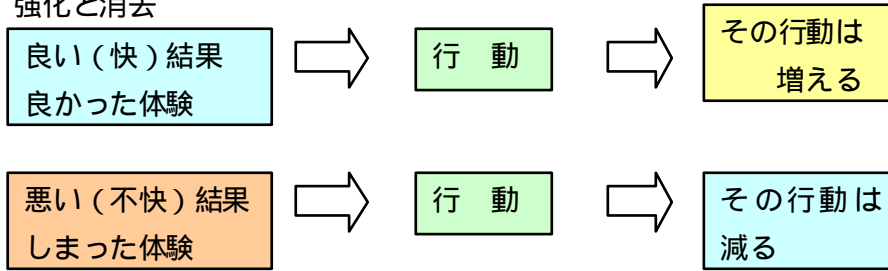
- ちゃんとしなさい こんにちはと挨拶してね。
- いらんことしなで 椅子を蹴るのはやめてね。
- しっかりしなさい 家まで自分で歩いてね。



2、 良い結果 悪い結果

良い行動を伸ばし、不適応行動を減らす方法

強化と消去



良い結果（良かった体験）

子どもが欲しくなるもの（直前の行動を次に起こりやすくもの）

ほめ言葉 よくできたね、すごい、お母さん嬉しいわ、かっこいい、ありがとう

動作 笑顔、拍手、抱っこ、たかいたかい

ご褒美 いっしょに遊ぶ、少し特別なおやつ、高価でない買い物

悪い結果（しまった体験）

子どもがあまり欲しくないもの（直前の行動を次に起こり難くするもの）

・元に戻す責任をとらせる 掃除をする、かたづけをする、謝る

・特権が減る ゲームの延長時間が減る、特別なおもちゃで遊べない

* 結果リストを作ると使いやすい

* 結果はサイズの適切さが重要

* 特に悪い結果は、前もって決まっている方がよい。アドリブは危険

良い結果

誉める

特別なおやつ

適度な外出

悪い結果

謝る

ゲームの延長が減る

弁償する

人権に関する結果

暴言

叩く・蹴る

食事を抜く

3、 効果的なほめ方

良い行動を戦略的に伸ばす方法

ステップ

賞賛を与える

（かしこいね。おりこうね。えらいね。がんばったね。）

望ましい行動を表現する（具体的に行動を表現する わかりやすいコミュニケーションを思い出しましょう。）

理由を述べる（子どもの側に立った理由 早くテレビを見られるようになる。）

良い結果を与える

4、 予防的教育法（前もった言い聞かせ）

子どもたちに、未来に起こりうる状況のために前もって対処法を練習させることで、より効果的に対処できるようにさせる方法

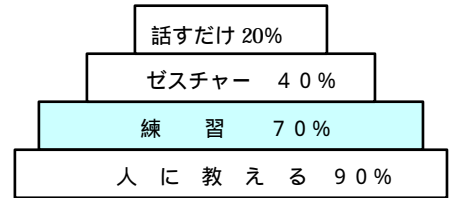
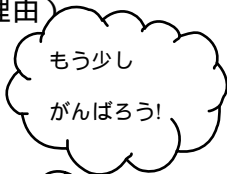


ステップ

落ち着く（問題を焦点化し、子どもの言葉や態度に感情的になったり、勝負しない）

子どもにして欲しいことを説明する（図を使っても良い サイクルを解析し共有する）

理由を説明する（子どもの側に立った理由）
 練習をする（図4参照）



	月	火	水	木	金	土
宿題	😊	😊	😊	😊		

5、問題行動を正す教育法

子どもの問題行動に対して、社会的に望ましい行動を提示し練習させる方
 ステップ

- 問題行動を止めさせる（指導に集中し問題を焦点化するため）
- 悪い結果を与える（出来れば子どもと話し合っただけの方が良い）
- 子どもにして欲しいことを説明する（具体的にステップに沿って行動を述べる）
- 子どもにして欲しいことを練習させる

6、自分をコントロールする教育法

子どもと緊張が高まった場面で、職員、子ども共に落ち着きを取り戻し再教育する方法



第1ステップ

親（職員）が落ち着くヒントを実行 落ち着くための指示を与える 落ち着くための時間を与える

第2ステップ

共感的表現 状況説明 落ち着くヒントを子どもに教える
 落ち着くヒントを練習させる 元の問題に戻る



*マイピンチメニュー

問題行動やイライラにはパターン・周期があります。それを発見して予防しましょう。

	月	火	水	木	金	土	日
朝							
午前							
昼							
午後							
夕方							
夜							
合計							

よくイライラする = すこしイライラする =

欧米で出会った印象的な格言

- * 今 1 \$ を投資すれば、将来 1,000 \$ を失わずにすむ。
- * 10 歳までの子ども達を社会が守らないと、今度はその子ども達から社会を守らないといけない時が来る。
- * この仕事は、最初は多少手間のように思われるが結局われわれの時間を大幅に節約してくれる。